

2021年6月17日

各 位

第 67 回愛媛県内企業業況見通し調査

- 2021 年上期実績見込みおよび 2021 年下期見通し -

～ 景況感は大幅改善も先行きは慎重な見方～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称 I R C、社長 重松 栄治）では、このたび標記の調査結果を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

なお、詳細は2021年7月1日発行の「IRC Monthly」2021年7月号に掲載予定です。

記

【調査概要】

- ・ 愛媛県内企業の 2021 年上期（1～6月）の業況判断 D I は、前期比 14 ポイント改善し 24 となった。部門別では、製造業は同 24 ポイント改善の 18、非製造業も同 9 ポイント改善の 27 となった。
- ・ 2021 年下期（7～12月）見通しの D I は、2021 年上期比 11 ポイント悪化し 35 となった。部門別では、製造業は同 7 ポイント悪化し 25、非製造業も同 14 ポイント悪化し 41 となった。
- ・ 2021 年上期の売上高伸び率は、前年同期比 1.8% 増となった。部門別では、製造業は同 4.1% 増、非製造業は横ばいとなった。2021 年下期の見通しは、前年同期比 1.6% 増となった。製造業が同 6.8% 増となった一方、非製造業は同 3.1% 減となった。
- ・ 2021 年上期の採算 D I は、前期比 13 ポイント上昇し +27 となった。2021 年下期見通しは、2021 年上期比 3 ポイント低下し +24 となった。
- ・ 2021 年上期の業況判断 D I は、感染抑制と経済活動の両立を図るなかで前期比 10 ポイント超の改善となった。全国的には予断を許さない状況が続いているが、県内の足元の感染状況は落ち着きつつあり、ワクチン接種も段階的に進んでいる。景況感の回復が本格化していくことを期待したい。

以 上

【本件に関するお問い合わせ】 株式会社いよぎん地域経済研究センター（担当：渡辺） TEL(089)931-9705

はじめに

日本経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の影響により厳しい状態にあり、個人消費や雇用情勢に弱い動きがみられる。先行きについては、変異型ウイルスのまん延が懸念されるものの、ワクチンの普及や海外経済の回復が追い風となり持ち直すことが期待される。

県内経済は、個人消費や雇用情勢に弱めの動きがみられ、新型コロナの感染再拡大による足踏み感がみられる。こうしたなか、県内企業の業況等を把握するため、アンケートを実施し分析した。

調査実施内容	
調査対象	愛媛県内に事業所をおく法人 814社
調査方法	郵送によるアンケート方式
調査時期	2021年5月
回答状況	有効回答企業 402社 有効回答率 49.4%

各DIの算出方法	
DI	企業に対して、業況や雇用人員の過不足などに関するアンケートを実施し、その結果を指数化したもの。
業況判断DI	計算式:「良い・やや良い」-「悪い・やや悪い」 「良い・やや良い」と判断する企業が多いほどDIはプラス100に近付き、逆に「悪い・やや悪い」と判断する企業が多いほどマイナス100に近付き。
仕入・販売価格DI	「上昇・やや上昇」-「下落・やや下落」
採算DI	「黒字・やや黒字」-「赤字・やや赤字」
資金繰りDI	「余裕あり・やや余裕あり」-「苦しい・やや苦しい」
雇用人員DI	「過剰・やや過剰」-「不足・やや不足」
生産・販売設備DI	「過大・やや過大」-「不足・やや不足」

1. 業況判断DI

(1) 2021年上期実績

景況感は製造業、非製造業ともに改善

2021年上期の業況判断DIは、前期比14ポイント改善し24となった。部門別にみると、製造業は前期比24ポイント改善の18、非製造業も前期比9ポイント改善し27となった。

製造業は、「木材・木製品」が大幅に改善し、DIは33とプラスに転じた。米国の住宅バブルで木材の輸入量が減少しているため、国産材の需要が急増している。

非製造業は、巣ごもり需要が増加した「小売業」

のDIが改善した。「運輸業」は荷動きが悪く、依然として厳しい状況にあるが、傭船料が上昇した「海運」では持ち直している。一方「旅館・ホテル業」は、感染の第4波の広がりを受け、DIが悪化し100となった。

(2) 2021年下期見通し

製造業、非製造業ともに見通しは悪化

2021年下期見通しの業況判断DIは、2021年上期比11ポイント悪化し35となった(図表-1)。部門別にみると、製造業は同7ポイント悪化し25、非製造業も同14ポイント悪化し41となった。

本アンケートは、県独自の警戒レベルの引き上げや、「まん延防止等重点措置」の適用後に実施されたため、先行きの不透明感の高まりを背景に、企業の慎重姿勢が強まったと考えられる。

図表-1. 業種別業況判断DIの推移

業種	(前回調査)	(今回調査)	
	2020 下期	2021 上期	2021 下期見通し
全産業	38	24	35
製造業	42	18	25
食料品	35	24	28
繊維品	63	35	29
タオル	89	55	55
その他	29	0	17
木材・木製品	0	33	11
紙・パルプ・紙加工	14	41	18
印刷	100	70	90
化学	67	20	20
金属・造船・機械	44	4	21
造船	50	43	86
農業機械	71	0	50
その他	38	2	7
その他製造業	13	13	13
非製造業	36	27	41
建設業	6	16	31
商業	28	13	34
卸売業	30	15	37
食料品	14	13	33
薬品・化粧品	50	0	14
建築材料	56	25	69
電気機器	11	25	25
その他	31	0	21
小売業	26	10	30
自動車	43	22	0
機械・電器	20	50	100
大型小売店	20	33	33
その他	33	18	32
運輸業	65	43	43
陸運	76	69	69
海運	50	14	14
旅館・ホテル業	60	100	80
その他サービス業	49	35	49

2. 売上高

(1) 2021 年上期実績

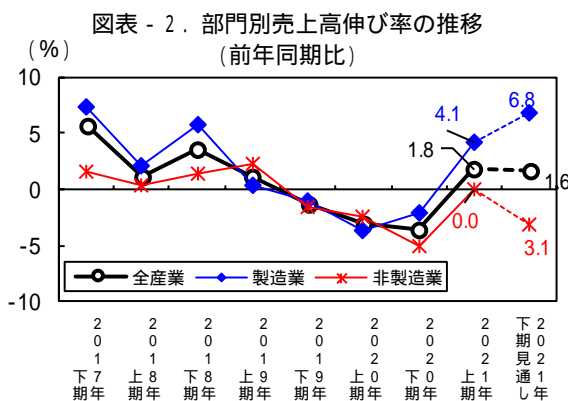
製造業は増収、非製造業は横ばい

2021 年上期の売上高は、前年同期比 1.8% の増収となった(図表 - 2)。部門別にみると、製造業は同 4.1% の増収、非製造業は横ばいとなった。

(2) 2021 年下期見通し

製造業は増収も、非製造業は減収の見通し

2021 年下期の売上高見通しは、前年同期比 1.6% の増収となった(図表 - 2)。部門別にみると、製造業の見通しは同 6.8% の増収、非製造業も同 3.1% の減収となった。



3. 設備投資

(1) 2021 年上期実績

実施割合は引き続き 50% を下回る

2021 年上期の設備投資実施企業の割合は、前期比 3.9 ポイント低下し 42.9% となった。実施割合は、3 期連続で 50% を割り込んだ。

部門別にみると、製造業は同 10.5 ポイント低下し 46.6%、非製造業は同 0.1 ポイント低下し 40.7% となった。

(2) 2021 年下期見通し

製造業は上昇、非製造業は低下

2021 年下期に設備投資を予定している企業の割合は、2021 年上期比 0.5 ポイント低下し 42.4% となった。製造業は同 4.4 ポイント上昇し 51.0%、非製造業は同 3.4 ポイント低下し 37.3% となった。

4. その他の項目

(1) 資金繰り D I

資金繰りは改善

2021 年上期の資金繰りは、前期比 2 ポイント上昇し +22 となった。2021 年下期見通しは、7 ポイント低下の +15 となった(図表 - 3)。

(2) 採算 D I

採算は改善

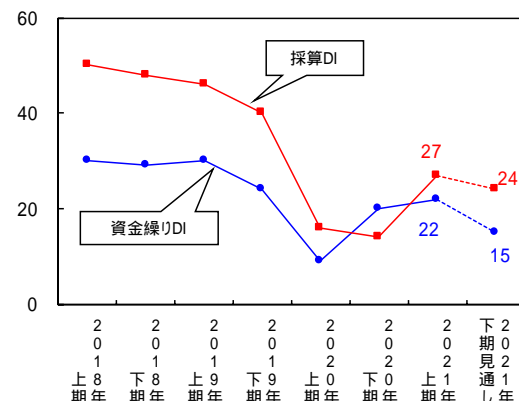
2021 年上期の採算は、前期比 13 ポイント上昇し +27 となった。2021 年下期見通しは、2021 年上期比 3 ポイント低下し +24 となった(図表 - 3)。

(3) 雇用人員 D I

人員不足感は根強い

2021 年上期は、前期比 5 ポイント上昇したが、24 と依然として人手不足感は強い。2021 年下期見通しは 23 となった

(%ポイント) 図表 - 3. 資金繰り D I・採算 D I の推移



おわりに

2021 年上期の業況判断 D I は、感染抑制と経済活動の両立を図るなかで改善した。製造業の景況感は全体的に改善しており、非製造業も対人サービス関連の業種は厳しいものの、「小売業」をはじめ景況感が改善している業種がみられた。

全国的には予断を許さない状況が続いているが、県内の足元の感染状況は落ち着きつつあり、ワクチン接種も段階的に進んでいる。景況感の回復が本格化していくことを期待したい。

(渡辺 勇記)